



2012～2013 年度
国際ロータリー会長
田 中 作 次

Weekly Report Niigata



2012～2013 年度
新潟ロータリー会長
下 岡 正 八



奉仕を通じて 平和を

2012～13 年度 国際ロータリーのテーマ

新潟 RC 7月第4例会 (2012.7.24) No.2953

- (1) ロータリーソング「それでこそロータリー」斉唱 (3) 前橋 RC 山田 邦子会長挨拶

(2) 下岡 正八会長挨拶

ころ

国際ロータリー直前会長カルヤン・ベナルジーさんのテーマ「心の中をみつめよう博愛を広げるために」また、2560地区会長の鈴木重彦さんは「恕の心を以って和を為す」といっています。では、「心とは何か」「どこにあるのか」と質問しても現時点の人間の知識では、定義できません。

何故か、それは、全ての心的現象は、個人の主観的経験があつて他者によって直接見たり触れたりすることはできないからです。このように言葉の意味を明示(科学的に証明できない)できない言葉を一般社会では頻繁に使用しています。言葉は人工物です。「三つ子の魂百まで」という諺があります。本来は、三つ子の心六十知恵八十魂百までといっています。意味は、幼少時代の性格は歳をとっても変わらないということです。

ここで赤ちゃんを思い浮かべて下さい。赤ちゃんは、大人が作った社会、特にルール、法律、言語、その意味など自身で表現できるようになるまで周囲の世界を全く知ることが無いのかといえば、それは誤っているということを誰でも気付くと思います。

ここから①人は喋らなくても知っていることが沢山あります
②人は喋る以上のことを知ることができるのです

フランス哲学者・数学者デカルトは、意識する心と身体、という二つの実態をもつ存在として人間をとらえました。

人は、自身の全ての経験を駆使し、対象に注意し気付くのです。これが意識といわれていることです。特に専門分野では人と人が相互に志向性を強調し合う場合、心といわず意識という言葉を使用するようになっています。

後日、意識についてはお話しします。

7月31日の例会予定

下 岡 正 八 会長のお話